

2019年12月10日

オーストリア航空

オーストリア航空

成田＝ウィーン線を来夏では2週間前倒しし、2020年3月14日より再開 ギリシャ、イタリア、スペイン路線も増便

オーストリア航空は、成田国際空港と音楽の都ウィーンを結ぶ直行便を、2020年3月14日より(到着便は同3月13日成田着より)運航を再開いたします。

今年の夏期スケジュールにおけるウィーン＝成田線が大変好評だったことを受け、来夏は2週間前倒しし、本路線を再開することになりました。

夏期スケジュールに先立って運航される期間中、使用される機材はボーイング767型機で、週4便の運航となります。夏期フライトスケジュールでは、デイリーの運航となり、ボーイング777型機を導入します。オーストリア航空では、すべての長距離路線用機材にプレミアムエコノミークラスを有し、このプレミアムエコノミークラスは、スカイトラックス社の2019年ワールド・エアライン・アワードで「ベストプレミアムエコノミークラス機内食」部門にて首位を獲得した機内食などを含め、お客様に大変好評をいただいています。

成田＝ウィーン線の再開の前倒しを受け、ルフトハンザグループの日本・韓国支社長のドナルド・ブンケンブルクは次のように述べています。「この夏大変ご好評をいただきました成田＝ウィーン線を来夏のスケジュールでも、今年よりさらに前倒しで運航を開始することができ、大変嬉しく思っております。オリンピックが開催される記念すべき年となる来年も、日本のお客様にこれまで以上に満足いただけるよう、サービスをより一層充実させ、ご提供して参りたいと思います。」

また、成田＝ウィーン線は観光客だけではなく、乗り継ぎで目的地に向かうお客様にとっても魅力ある路線です。ハブ空港であるウィーン空港からは、搭乗のお客様の約半数が他のフライトに乗り継いでいます。

2020年夏期スケジュールでは、この戦略的ハブ空港であるウィーン国際空港から、米国を始め、ギリシャ、イタリアやスペインなど、さまざまな路線で新規就航および増便が予定されています。

リゾート地を重視

オーストリア航空は2020年の夏期間中、ギリシャの19の目的地との間で週最大70便を運航します。今年と比べて週12便の増加となり、中でも沿岸都市のカヴァラとサモス島は新規就航です。ロードス島は週3から8便に増え、クレタ島のイラクリオンは週7便の運航となる予定で、今年の3倍増となります。コルフ島とコス島はそれぞれ1便増加し、週5便と週3便の運航となります。ザキントス島、カルパトス島、ミコノス島、スキアトス島などの人気目的地の路線も、これまで同様に運航します。

イタリアは旅行先として変わらぬ人気を誇ることから、来夏は13の目的地へのフライトを運航します。新たに加わったローマ線は、週3便の運航となります。サルデーニャ島へのフライトは、オルビア線が3便増えて週6便となり、さらに遠距離のカリアリ線が週3便運航されます。シシリア島のパレルモ線は、週1便から2便に増加となります。イタリア全体で見ると、今年の夏期に比べて週26便増の、最大で週138便を運航することになります。

スペインで休日を過ごしたい方には、毎日2便運航のバルセロナ線や、カナリア諸島やバレアレス諸島への路線など、幅広い選択肢からフライトを選んでいただけます。また、グランカナリア島、フェルテVENTOURA島、テネリフェ島に週1便、イビザ島に週2便、メノルカ島にも週1便運航します。

ドイツ、中央・東ヨーロッパは引き続き中核市場

オーストリア航空は来年の夏、ウィーンとドイツを結ぶ路線として、9つの目的地と週約280便を運航する予定です。新たに加わったのがニュルンベルク便で、1日最大2便の運航となります。2020年夏期のフライトスケジュールでも、中央・東ヨーロッパにはこれまでと同様に重点を置いています。来夏は、33カ所の目的地と最大で週440便が運航されます。新規はクロアチア共和国の沿岸都市ザダルへの路線で、デイリー運航となります。

オーストリア航空 Austrian Airlines

オーストリア航空はオーストリア最大の航空会社で、世界約130都市に就航。なかでも中欧・東欧では35都市を結ぶ密度の高いネットワークを構築しています。ハブ空港であるウィーン国際空港は欧州の中心部に位置し、その地理的なメリットにより東洋と西洋の理想的なゲートウェーとなっています。オーストリア航空は欧州最大規模の航空グループであるルフトハンザグループの一員で、世界初の航空連合スターアライアンスに加盟しています。詳細情報はwww.austrian.comやFacebook、Twitter、YouTube、myAustrianBlog でご覧いただけます。